

湯島

すぐ足許の砂利を見てみて
にほふやうなあなたのほほを自分のほほのすぐ近くに
感じて 僕は涙ぐんだ
おづおづと僕はおそれてゐた
僕の心をおそつたのはわけのわからないさびしさだつた
あなたのひとみを盗み見ながら
だんだん気持がすさんで来た
町の屋根屋根が見渡せた
うすぼんやりと花曇り
鳩がたくさん飛んでゐた
お互の心理の迷路のさぐりあひ
二人の頭上に咲いてゐた桜の花も終りに近く
ちらちら時々散つて来た
まぶしいやうなあなただつた